

I 実践

1 本校の人権教育の目標

法の下での平等の原則に基づき、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を推進するため、研修計画を位置づけ、教師自らの正しい認識を深め、自他の人権を大切にしたい望ましい人間関係を築こうとする生徒を育てる。

2 実践内容

(1) 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導の推進

互いに学び合い、認め合う中で、確かな学力を身につけることができるように、授業の改善を行っている。授業の中で、全教師が学び合いの手立てを取り入れるようにしている。自分の考えが認められたり、友達の考えに触れたりすることで、仲間と学ぶ楽しさを知ることができ、自己肯定感を高めると同時に、学ぶ意欲を高められるようにしている。また教師は「1時間の授業の中で5回以上ほめる」ことを共通実践として掲げ、生徒のよさを認め、意欲を高められるように取り組んでいる。

(2) 人権メッセージの作成

生徒全員が人権メッセージを作成し、人権問題や今の社会問題についての自分の考えや、伝えたいことをまとめた。道徳の授業などを通して、思いやりや命の尊さについて考えたことを、自分の言葉で表現した。身近な「いじめ」の問題をはじめ、高齢者の人権やインターネットによる人権侵害など様々な問題に触れ、考えを深めている。

(3) 人権作文の応募

夏休み前に、これまでに発行されている人権作文集を読んだり、作文集を道徳の教材としたりすることで、人権感覚の育成を図った。夏休みの課題として人権作文に取り組みせ、人権作文コンテストに応募し、多くの生徒が入賞することができた。

(4) 総合的な学習の時間での取り組み

1学年では、「郷土『日立』」というテーマの中で、身近な地域の方とふれあう時間を設けている。地域のコミュニティ推進会ボランティアふれあい活動部との共催による「ふれあい交流会」には、主に地域の高齢者が参加し、卓球や郷土かるた、輪投げなどのレクリエーション、給食の会食会を行っている。これらの活動を通して、高齢者を身近に感じるとともに、生徒自身が地域の一員としての役割について考えられるようにしている。(資料1)



【資料1 ふれあい交流会の様子】

(5) 古紙回収運動

協力、協働の心を育てるとともに、労働の大切さ、資源の有効活用の重要さを考えること、地域への貢献やボランティアを通じての社会参加をする目的で、古紙回収を行っている。

地域の人々からの支えを実感し、地域の一員であるという意識を高めるとともに、人の役に立ったときの満足感や自己有用感を感じられるようにしている。

収益金は茨城新聞社を通して、災害地への支援となるように募金を行った。(資料2)



【資料2 古紙回収の様子】

(6) 人権教室の実施

1年生で人権教室を行い、「いじめ」についてのロールプレイをし、友人関係の場面例をもとに、人との関わり方や接し方について考えることができた。

体験的な活動を行うことで、今後の自分たちの生活に生かすとともに、思いやりの気持ちを持とうという意識を高めることに繋がった。(資料3)



【資料3 人権教室の様子】

(7) 心と体を大切にするための取り組み

思春期講座として、1年生は「歯と口の健康集会」「喫煙防止教室」、2年生では「薬物乱用防止教室」、3年生では「性に関する学習会」を行い、自分にも目を向け、自身も大切にしようとする気持ちを育てている。また、2年生では「立志式」を行っている。自分の成長を改めて見直すとともに、周囲への感謝の気持ちをもち、これからよりよい成長するための機会となっている。

(8) 幼児とのふれあい交流会

2年生では家庭科の授業で幼児向けの絵本作りに取り組み、幼稚園訪問をしている。幼児にわかりやすく伝えるためには、どのような言葉を使えばよいのか、を考え、幼児への思いやりをもったり、関わり方を考えたりすることができた。また、そうした活動の中で、幼児を一人の人間として大切にしたり、尊重したりするなど、多くのことを学ぶよい機会となっている。(資料4)



【資料4 幼稚園訪問の様子】

(9) 校長賞の授与

本校では、3つの目標「時間を守る、迷惑をかけない、他人の役に立つことをする」のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動するように心がけている。特に、「人の役に立つ」という目標に向けた一人一人の頑張りを賞賛するために、「校長賞」を授与している。「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「快いあいさつ」など、日常の中で、教師が生徒の良い点を見つけ、推薦している。1年間で全員が受賞できるようにし、自己肯定感の高まりにつなげている。

(10) ハイパーQUテスト、いじめに関するアンケート、面談・教育相談の実施

4月と11月にハイパーQUテストを実施して、その結果を分析して、学級経営に生かしている。また、いじめに関するアンケートを毎月実施し、生徒の悩み等を把握するとともに、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるように努めている。その他には、二者面談を学期に1回行い、事前の生活アンケートをもとに話を聞き、きめ細やかに生徒の見守りができるようにしている。

3 成果

○「学校生活や授業に関するアンケート」では、「迷惑をかけないようにしている」で「とてもそう思う」「そう思う」が95.4%、「他の人の役に立つことをやろうとしている」は、「とてもそう思う」「そう思う」が92.1%であり、自分の行いによって周りに貢献しようとしている生徒が多い。

○毎日の生活の中で互いを認め、高め合う機会を多くつくることができた。友達が褒められている場面を見ることで、自分もそのように振る舞おうとするようになってきた。校長賞を受賞した生徒が、その行動が自然と行えるようになったり、受賞した友だちを褒めたりと、日常の中によりよい行動をしようとする意識が根付いてきている。

II 今後の課題

○継続的に学校全体で生徒一人一人を認め、励ますことをしてきたが、「学校生活に関するアンケート」では、「自分にはよいところがあると思う」という質問で、「あまり思わない」「思わない」が21.9%であった。自己肯定感をさらに高めていくための実践が必要である。

○人権作文コンテストの応募や幼稚園訪問などで、国語部や家庭科部の人権教育が活発になっているが、他教科による人権教育も必要である。全職員が一体となって生徒の人権意識の向上に取り組むためにも、日常の学校生活はもちろんのこと、授業でも題材を研究していく。

III 人権コーナー設置の様子

人権コーナーには、月の道徳計画、道徳で使った資料、授業の感想、魔法の言葉を掲示している。道徳で使った資料や感想をみて感じたことを振り返ることができ、日頃から人権感覚を育成できるようにしている。また、魔法の言葉は、生徒の励みになったり、自分を振り返ったりできる言葉を掲示して、意識の高揚を図っている。(資料5)



【資料5 人権コーナー】